

「我慢」 「頑張る」 「おかげさま」

文&写真 学生記者 高瀬杏菜(法学部3年)

『戦後70年』という言葉が新聞記事やテレビの報道番組で見る事が多くなった。私なりに「戦争」を学んだのは昨年夏に参加した文学部の新しい研修『グローバル・スタディーズ』で訪れたハワイだった。

ハワイ出発前に参加者それぞれが発表した「私が思うハワイのイメージ」のコラージュは“青い海”や“白い砂浜”など南国の楽園やリゾートを思い浮かべるものばかり。そして、とこところ「戦争」を連想させるものがあった。

ハワイ研修の監修は森茂岳雄先生だ。目的は「ハワイにおける日本人移民・日系人の歴史的経験や現在の生活についての認識を深める。それについて学ぶ学校現場で活用できるグローバル教育の教材づくりを行う」こと。

ハワイに寺があることに驚き、ハワイで見た盆踊り



ハワイでは思わずシャッターを切ってしまう光景がたくさんありました

や書道の学習などを通して、日本の伝統・文化が継承されていることにも驚かされた。強制収容所跡地を訪れ、日系人墓地での慰霊祭へ参加した。「戦争」を学び、ほかのハワイ体験も含めて、グローバル教育の教材を写真アルバム・紙芝居・漫画など多様な手法で作った。

多くのメンバーが感じ、教材にも盛り込まれたのは「我慢」「頑張る」「おかげさま」という言葉だ。現地でインタビューした日系2世・3世の方々、滞在中お世話になったハワイ大学ヒロ校の本田正文先生や先生のお母様がよく口にしていた。戦時中、日本人であるがゆえに差別を受けるなど苦しい立場に置かれながらも、前向きに頑張った日系人の姿だと感じた。

これらの気付きはおそらく、個人旅行などでハワイに行くだけでは得られなかったことだと思う。出国前の印象と事後課題として教材を作り終えた今の大きな違いは、リゾート地のイメージが強かったハワイに「移民として渡った人たちや2世・3世の方々の苦労」「ハワイに根付く日本文化」というキーワードが追加されたことだ。

今回の研修旅行は英語や現地の文化などに触れるだけではなく、グローバル教育の教材を作ることで、ハワイについて、そして何よりも日系人について考えるきっかけを私たちに与えてくれた。

学生生活の経験はこれからも幾つかするだろうが、私はハワイでとても大きな歴史的意义を見出した。



出来上がった教材の一部です。紙芝居や漫画など力作ぞろいです

✎ ※学生の作成した教材を中心に、2014年度グローバル・スタディーズ報告書として、森茂岳雄編『日系アメリカ人の経験に学ぶーグローバル教育の教材づくりー』をまとめた。本報告書についての問い合わせは、文学部森茂研究室まで。